

議会だより入善

GIKAI DAYORI

NYUZEN No. 217

2026年4月27日

黒部川堤防桜堤（浦山新地内）

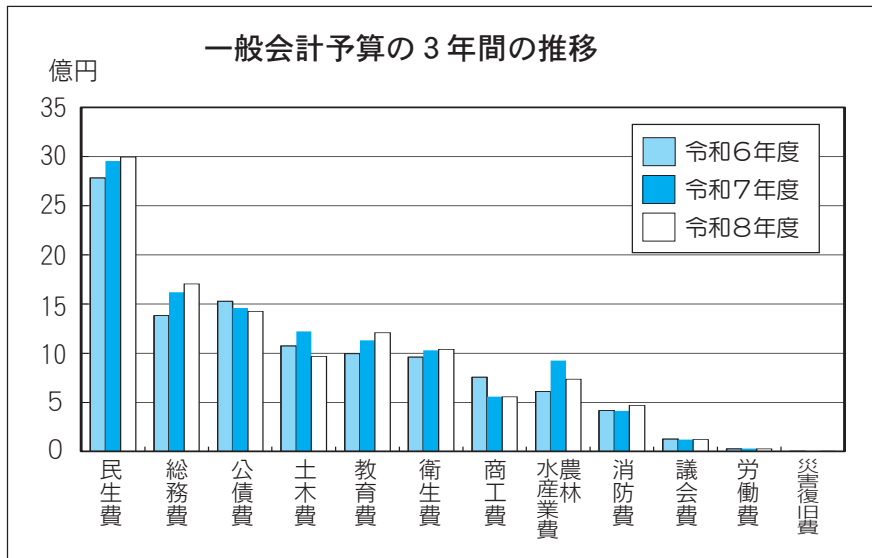
主な内容

令和8年度予算の概要	...	2P
特別委員会レポート	...	7P
常任委員会レポート	...	8P
代表・一般質問（8議員）	...	10P
事業紹介	...	18P
（入善っ子の「夢」、叶えます事業）		

3月
定例会

じゅわ〜と
にゅうぜん

「夢と笑顔があふれるまち」に向け 消滅可能性自治体からの脱却を目指す



新年度予算の特徴

3月定例会は、3日から19日までの17日間開会し、町長から提案された令和8年度の一般会計予算1件と特別会計予算3件、事業会計予算2件、令和7年度補正予算3件、令和7年度一般会計補正予算の専決処分事項の承認2件、条例の一部改正など議案12件を審議し、すべて可決した。

一般会計	112億6760万円
特別会計	29億6800万円（3会計）
事業会計	22億9791万円（2会計）

令和8年度の一般会計予算は、「ストップ人口減少」の3つの柱に関する事業の拡充・重点化を図るとともに、公共施設の脱炭素化や安心・安全なまちづくりを更に進め、加えて町内インフラの見直しや物価高などの社会変化に対応するものとなった。また、持続可能な「まち」となるため、限られた財源の効率的な配分に努めた予算とし、前年度当初予算と比較して1・9%の減とした。

ストップ人口減少！変わらぬ信念
くみんなの笑顔を
未来につなぐ予算

(1)子どもを産み育てやすい

環境づくりによる出生数の増

○「それ行け！結婚プロジェクト」として、婚活イベント（カキ婚活、ツーリズム婚活、友人とペアで参加する合コンな

ど）を年5回開催するほか、軽スポーツや体験型イベントなどの複数メニューに対して申込者が一定数に達した時点で開催する随時募集型婚活サークルの開催、町内事業所に勤める従業員の方々が結婚しやすい環境づくりを推進する婚活応援企業との連携など、結婚を目指したサポートを行う。

1163万円

○小・中学校給食費は、保護者の経済的負担のさらなる軽減を図るため、小学校は国・県の支援との差額分、中学校は全額分を町が助成し、学校給食費の完全無償化を行う。

8614万円

○にゆうぜん保育所で、子どもの成長を促し、保護者の育児負担の軽減に繋げる目的で、「誰でも通園制度」を実施する。親の就労に関係なく、生後6カ月〜3歳児未満の未就園児を預けることができる。1時間300円、1カ月あたりの利用時間の上限は10時間までとなる。併せて、早朝・延長保育や土曜・休日保育を継続して実施する。

1447万円

○保護者が子どもを安心して預けられる環境整備のため、町内保育所の入口に防犯カメラを設置する。
97万円

○学童保育に通う障がい児の受入れ体制の充実を図るため、専門的な知識を持つ巡回支援員を配置し、学童保育支援員に対し、児童の特性に応じた専門的な助言を行う。
47万円

(2)健康寿命の延伸による

自然減の抑制

○低栄養防止や生活習慣病の重症化予防、健康状態が不明な高齢者の状態把握、通いの場などの支援を実施している。新たに薬剤師同行による服薬指導を町単独で実施する。
1748万円

○特定健康診査の受診率の向上を目指し、未受診者に対して、よりきめ細やかに受診を促すほか、LINEを用いた予約システムの導入や、SNSを活用した普及啓発に取り組む。
1964万円

○「減塩いいね！プロジェクト」では、高血圧等の生活習慣病の予防や改善につながる食生活を心掛けるよう、産学官民が連携した減塩・適塩運動を継続して実施しており、新たに20代から50代の世代を対象に塩分の摂取状況調査を実施する。
70万円

(3)カーブ・Uカーブの促進と地域活性化による転入増、社会増の促進

○町内の中心区域以外で新規創業あるいは、新たに店舗等を構える方への新築や買取り、リフォーム等の設備資金に対する支援の上限を100万円から150万円に増額する。
(※補助率3分の1は変更なし)
200万円

○入善深層水かき祭りと深層水ふれあいデーを統合し、海洋深層水と深層水仕込方をPRするイベントを支援する。
130万円

○令和8年10月28日(水)から31日(土)の日程で、海洋深層水利用学会全国大会がうるおい館ほかで開催されるので運営を支援する。
80万円

その他の主な予算

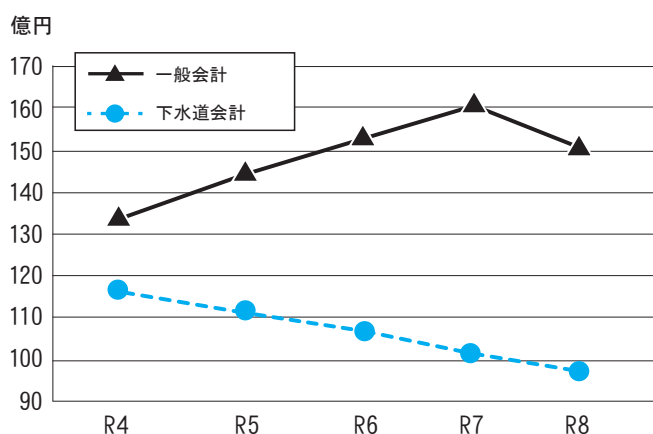
○町営住宅の適正な管理のために必要な設備等を次のとおり計画的に更新する。
・全住宅にて、共用部の照明LED化と防犯カメラの設置

・くぬぎやま住宅と駅南住宅にて、給排水管の更新

・駅南住宅の配電盤など更新
・くぬぎやま定住促進住宅の風呂釜改修

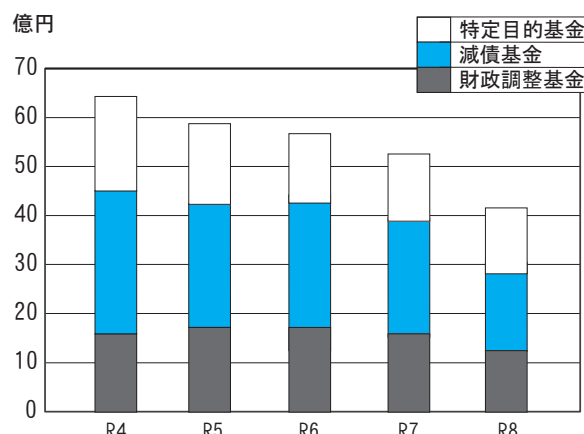
6280万円

一般会計と下水道会計の借入金残高



借入金残高・基金残高ともに令和7年度、8年度は見込額
※下水道会計(～R5年度 下水道特別会計)
R6年度～下水道事業会計)

一般会計の基金(貯金)残高



財政調整基金：将来への財源不足を補うための貯金
減債基金：借入金の償還に充てるための貯金
特定目的基金：特定事業のための貯金

◎町の貯金と借入金

条例の一部改正

次の条例の一部改正案を審議した。

- 入善町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について
- 入善町火入れに関する条例の制定について
- 入善町の職員の給与に関する条例の一部改正について
- 入善町行政手続条例の一部改正について
- 入善町長等の損害賠償責任の一部免責に関する条例の一部改正について
- 入善町消防団条例の一部改正について
- 入善町災害弔慰金の支給等に関する条例及び入善町各種委員会委員等の報酬及び費用弁償並びに実費弁償支給条例の一部改正について
- 入善町下水道条例等の一部改正について
- 入善町国民健康保険税条例の一部改正について

賛成多数で可決

賛成全員で可決

令和7年度

3月補正予算を可決

【一般会計】

1億4889万6千円を増額し、
総額124億6279万4千円とする。

【一般会計の主な事業】

○防災対策費 5654万4千円

昨年度に引き続き、国交付金を活用し、防災・減災に必要な資機材等を整備する。

整備予定の資機材

- ①簡易防災倉庫 10基
- ②避難所用防災マット 1000個
- ③発電機 18台
- ④投光器 36基
- ⑤移動式冷暖房機 1台
- ⑥プライベートルーム 81個

【特別会計】

国民健康保険特別会計

919万4千円を増額

後期高齢者医療特別会計

4766万5千円を増額

財産の取得について

冬期間の町民の生活や、安全・安心な交通環境を確保するため、町が所有する除雪機械44台のうち、車両2台を更新する。

「1台目」

取得する財産 小形除雪車 1台
契約金額 3806万円
契約先 山室重機株式会社

「2台目」

取得する財産 除雪ドーザ14トン級 1台
契約金額 1755万6千円
契約先 千代田機電株式会社 立山店

討論

令和8年度予算について

反対討論 井田 義孝 議員

令和8年度一般会計予算では生活道路の補修など寄せられた要望が例年7割程度しか対応できておらず、もっと予算を増やすべきだ。
デマンドタクシーの当日午前の予約が取れず改善を求めてきたが、改善策が見えない。

町内の介護事業者は、国の報酬が低いため経営の危機にある。3億円近い地域福祉基金を使って支援すべきだ。

国民健康保険税条例の一部改正は大幅な保険税の引き上げ、その上に、子育て支援の財源を保険加入者から徴収するもので大きな負担増になる。40代夫婦と子供2人の年収567万円の世帯で年間15万円以上の値上げ、60代夫婦、年収342万円の世帯で9万円以上の値上げなど、認められない。同様に大きな値上げとなる後期高齢者医療特別会計予算も認められない。

下水道事業会計予算は 一軒2508円の基本料金が高すぎるために、1人世帯の使用料は5人世帯1人分の2・7倍という不公平な料金体系になっており、改善すべきだ。

賛成討論 元島 正隆 議員

令和8年度一般会計予算は、物価高騰などで財政運営が厳しい中でも、子育て支援や安全・安心なまちづくりなどソフト事業が大きく充実し、町民ニーズに応える思いやりある内容として高く評

価する。

一方で、財政調整基金等からの多額の繰り入れには不安が残り、健全財政の堅持を求める。人口減少対策では、子育て世帯に対する経済支援策として小・中学校の給食費無償化の方針、婚活支援の工夫、子育て相談機関の新設や障害児受入体制強化など、きめ細かな施策を評価する。

介護人材確保策としての魅力発信事業や、海洋深層水事業の新展開、新店舗支援の拡充にも期待する。旧庁舎跡地利用や学校特別教室・体育館の空調整備については早期の方針提示を求める。国保税率改正は基金逼迫を踏まえ、やむを得ない判断とするが、加入者に丁寧な周知と説明を強く要望する。

賛成討論 佐藤 一仁 議員

「ストップ人口減少」の実現に向けた施策の柱Ⅰ「子どもを産み育てやすい環境づくりによる出生数の増」では、結婚・妊娠・出産・育児に切れ目のない支援をしており、子どもたちの笑顔がふれる町・入善を目指す姿勢に沿った大切な事業だと認識している。

施策の柱Ⅱ「健康寿命延伸による人口の自然減の抑制」では、運転免許証自主返納者への公共交通利用券交付事業や「減塩いいね！プロジェクト」など、シルバー世代が健康に安心して暮らすために有意義な事業だと感じる。

施策の柱Ⅲ「Ｉターン・Ｕターンの促進と地域活性化による転入増・社会増の促進」に関しても多岐にわたる応援策を用いて、移住・定住の増進やそのための産業の育成・活性化を目指す取組みとして評価する。

さらに特筆すべき新規事業として、「入善っ子の『夢』叶えます事業」で採択された中央公園バスケットボールコート整備事業は、「自分たちの希望が町に届いた」「僕たちの思いが町を動かした」と子どもたちに大きな喜びを与える素晴らしい事業だと、高く評価するものである。

これらの事業以外にも各分野において素晴らしい取り組みがなされており、今後も、力強く邁進していただきたい。

臨時会 1月20日

1月20日に開かれた臨時会では、町長から提案された令和7年度一般会計補正予算1件を審議し、可決した。

歳入・歳出ともに2億7901万2千円を追加し、総額121億3058万6千円とした。

また、新川地域消防組合議会議員の選挙を行った。

◎主な事業

○物価高騰対策家計応援券支給費

1億5292万円

長引く物価高の中、消費者の生活支援と、町内での消費を促すことで、町全体の活性化につなげることを目的として、町内で使用できる家計応援商品券「にゅうぜんプリンセス・マイ商品券」を発行する。

・対象者 令和8年2月1日現在で入善町に住民票を有する者（3月31日までの出生者を含む）

・発行額 対象者1人につき5千円分の商品券（75歳以上1人につき5千円を加算する）
・交付方法 4月に郵送する。

○物価高対応子育て応援手当支給費

5169万円

物価高の影響を強く受けている子育て世帯を支援し、子どもたちの健やかな成長を応援するために物価高対応子育て応援手当を支給する。

・対象者 次の①または②に該当する児童の父母等

①基準日（令和7年9月30日）において高校生年代以下の児童（平成19年4月2日～令和7年9月30日の間に出生）

②基準日以後、令和8年3月31日までに出生した児童

・支給額 対象児童1人につき2万円

・支給方法 ◇児童手当受給者の場合は、児童手当を受給している口座に振込みとなるため、手続き不要。

◇公務員または令和8年2月1日以降に出生された新生児は受給申請書の提出が必要。

・支給日 1月末から順次支給

新川地域消防組合議会議員の選挙

当町選出議員のうち、1名欠員が生じたため、選挙をした結果、岡島功議員が当選した。

1月臨時会の議決状況

議案番号		氏名										
		加藤裕子	飯田朱美	三賀喜久美	鍵田昭	岡島功	井田義孝	本田均	中瀬淳哉	佐藤一仁	松田俊弘	元島正隆
議案第1号	令和7年度入善町一般会計補正予算(第4号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
選挙第1号	新川地域消防組合議会議員の選挙	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

3月定例会の議決状況

承認第1号	令和7年度入善町一般会計補正予算(第5号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
承認第2号	令和7年度入善町一般会計補正予算(第6号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第2号	除雪機械(小形除雪車)の取得について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第3号	除雪機械(除雪ドーザ)の取得について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第4号	令和8年度入善町一般会計予算	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○
議案第5号	令和8年度入善町国民健康保険特別会計予算	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○
議案第6号	令和8年度入善町育英奨学資金特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第7号	令和8年度入善町後期高齢者医療特別会計予算	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○
議案第8号	令和8年度入善町簡易水道事業会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第9号	令和8年度入善町下水道事業会計予算	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○
議案第10号	令和7年度入善町一般会計補正予算(第7号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第11号	令和7年度入善町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第12号	令和7年度入善町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第13号	入善町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第14号	入善町火入れに関する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第15号	入善町の職員の給与に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第16号	入善町行政手続条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第17号	入善町長等の損害賠償責任の一部免責に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第18号	入善町消防団条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第19号	入善町災害弔慰金の支給等に関する条例及び入善町各種委員会委員等の報酬及び費用弁償並びに実費弁償支給条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第20号	入善町国民健康保険税条例の一部改正について	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○
議案第21号	入善町下水道条例等の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第22号	公の施設の指定管理者の指定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：賛成、×：反対、欠：欠席

特別委員会レポート

議会改革 特別委員会

3月13日に第2回となる議会改革特別委員会を開催し、今後の検討事項と議会改革について議論した。

議員定数や報酬の在り方について

議員定数については、現行の12名からのさらなる削減は議会運営を困難にするという意見や若手の参入を阻む「地区内の調整」や「プライバシーへの介入」が課題として共有された。

議員活動がしやすい環境を整え、若者が参画できる議会改革が必要であり、議会運営となり手不足解消に向けた課題を今後議論することとした。

育児・産休制度の周知、

年金・退職金制度の要望

活動を行うとともに、議会開始時刻の前倒しや、仕事と両立しやすい夜間や休日開催の検討など、多様な働き方に対応した運営方法を検討する。

報酬面では、市議会との格差解消の声が上がる一方、活動実態に見合った額かという慎重論も出た。

今後は、ICT化によるペーパーレス推進とともに、6月の特別委員会にて他自治体の報酬実態や活動時間を比較検証し、具体的な歳費のあり方や会議規則改正についても協議を深めることで全委員の了承を得た。

新人議員の知識向上に向け、予算書の解説講座の拡充を求める声が相次いだことに対し、新年度予算の3月議会前に実務者によるレクチャーを受

けるべきと結論付けた。

交通網対策 特別委員会

3月13日に第3回となる交通網対策特別委員会を開催し、令和8年2月末日現在の町内公共交通の利用状況について町当局から説明を受けた。

町営バス「のらんマイ・カー」の利用者は前年度比91%の1万3647人、1日当たり41・5人の利用であった。町当局は、利用者減の要因として

は、朝の時間帯で入善高校西停留所の降車人数や入善高校生の通学利用者が減少していることによる影響と推察している。

デマンド交通「ウチマエくん」の利用者は前年度比93%の1万1108人、1日当たり39・4人の利用であった。利用者減の要因としては、定期利用されていた方々が何

らかの理由で利用しなくなったことによるものと分析している。

委員会での議論より

●誰に乗ってもらいたいか目的をはっきりさせるべき。

●データに現れるニーズと潜在ニーズは違う。ウチマエくんの予約不成立が1日4人だ。予約しなくて乗れる巡回バスの運行を。

●ウチマエくんは「時間に遅れる」と荷物を持つてくれなくなった。

●免許返納者への公共交通利用券の利用率改善のため、多様な使い方ができるように改善を。

●新幹線二次交通は予約制にしてもやはり必要では。

●運転手不足なら町で雇えないのか。

●車いすの障がい者や習い事の子どもたちも使いやすくしてほしい。



町営バス「のらんマイ・カー」

レポート

総務 常任委員会

町民のふるさと納税による
税収の影響額は

Q 入善町民がふるさと納税で他市町へ寄付することで、町の税収にどのような影響を及ぼすのか。

A ふるさと納税の歳入から委託料などを差引いた額が税額控除を下回ればマイナス、上回ればプラスになる。

町へのふるさと納税額は約6900万円だったが、この金額から町歳出を差し引くと約3710万円となる。さらに税額控除額約2870万円を反映した結果、最終的に約840万円のプラスとなった。

年々税控除額が増えてきていて厳しい状態だ。



入善町ふるさと納税返礼品

旧役場の解体設計やアスベスト調査を

Q 旧役場庁舎・旧消防署解体調査・設計業務委託料とは。

A 旧役場庁舎や消防署を解体するにあたり設計が必要でアスベストの含有量の調査も必要だ。

また、旧庁舎にある行政無線の移設に730万円の費用を計上している。移設場所は未定だが、スピーカーの出力や高さを考慮して設計する。

民生児童委員の負担軽減にICT導入

Q 民生児童委員活動推進事業予算はICT化の予算か。

A 民生委員の半数近くが、働きながらの活

動のため、連絡や情報共有に負担を感じている。

町民生委員児童委員協議会からの要望もあり、負担軽減のためにICTを導入する。

現在は、ビジネス版LINE「LINE WORKS」を活用して、各支部長と連絡している。

今後は結ネットを活用して、72人の委員全員に一齐に連絡できるようになる。

介護人材確保の見込みは何名か

Q 介護人材確保事業予算の165万円は何人を見込んでいるのか。

また、令和7年度の予算180万円に対しての実績は何名か。

A 令和8年度は4種類の支援金で、20名を見込んでいる。7年度はまだ途中だが、7名に対し103万6千円の支援金だ。現在も申請されているので、最終的にはもう少し増える見込みだ。

特別支援学校の教諭が月1回巡回予定

Q 新規事業の学童保育巡回支援事業は、何人に対応し、どの程度の頻度で巡回するのか。

A 支援員は1名で、特別支援学校の教諭を予定している。巡回する頻度は月8回を考えている。

学童保育に通う障がいを持つ児童の状態をみて、学童保育指導員に助言をする。

こどもの居場所開設に支援

Q こども食堂支援事業やこどもの居場所開設支援事業の現況と開設後の運営支援はあるのか。

A 両事業とも開設時のみの支援だ。子ども食堂では上限20万円を支援している。町内には青木地区と入善地区（うるおい館）で開催している。

令和8年度予算では3カ所目を想定して予算化した。

こどもの居場所開設事業では、令和6年度に嶋田医院の「ひまわり」に支援した。

8年度では、1カ所の開設計画があるとのことなので予算化した。

町の地方債残高は現在がピーク

Q 新年度では、公債費の予算額が14億2243万6000円で、令和8年度末の残高見込みは151億1397万円となっている。今後、新庁舎や海洋深層水取水施設の償還が始まるが、公債費と地方債残高の推移はどのようになるのか。

A 地方債残高は今がピークで、償還のピークは令和5年だった。新庁舎や深層水取水施設の償還が始まるが、それ以上に、償還が終了して減少する部分が多い。臨時財政対策債が毎年3000〜4000万円と大きく減少していく。また、学校大規模改造などの償還も順次終了していく。

常任委員会

産業教育 常任委員会

農地集積から集約化へ
農家の話し合いを進める

Q 農業経営基盤強化促進対策事業において、集積から集約へ移行していくとのことだが、その事業内容は。

A 集積は担い手に田を預けることであり、集約は同じ担い手の田をまとめていくものだ。国はおおまかな枠組みを示しているが、詳細は未定であり、現在、情報収集している。

Q 集約化の進め方について、飛び地の交換、地力差などの課題をどのように考えているのか。

A 地区をまたがる耕作は非効率であるため、交換により効率的な農業を目指す。昨年度、農業委員会で地域計画を作成し、誰がどの田を耕作しているか把握できた。それを基に、農家の話し合

いの場を設けている。

地力回復については町として支援していく。変形田や畦畔が傷んでいる条件の悪い田は、個人財産であるため介入は難しいが、スムーズに交換できるように考えていきたい。

クマ対策にAIカメラ導入 住民周知へ

Q クマAIカメラ運用委託料の内容は。

A カメラ前を通る動物を熱源で感知し、クマであるかを判別して、登録連絡先へ画像を送信することで警戒周知を行う。

舟見地区で道路の関係で電気柵が未設置の3カ所に設置を検討する。

Q 進入を検知してどのように生かすのか。夜間でも住民へ周知する

A 周辺住民への注意喚起や、駆除に向けたパトロールにつながる。周知方法や時間帯は今後地区と協議して決定する。

**深層水活用 かきセン
ター増設で出荷拡大へ**

Q 海洋深層水利用水産振興補助金1500万円の内容は。

A 海洋深層水利用水産振興補助金という補助制度に基づき、町の地域資源である海洋深層水を活用した養殖・加工業者に対して支援するものであり、今回はかきセンターの浄化施設増設に対して補助する。

Q これによる費用対効果は。

A 企業支援という側面であるが、かきセンターは現在年間500万個を出荷しており、今回の増設により年間900万個の出荷を計画している。深層水仕込力としてブランドPRにつながる。

入善牡蠣ノ星では年間3万5千人の利用があり、今後は5万人への増加を見込んでいる。交流人口の増大に寄与している。

**中央公園の安全対策
壁の一部カットで対応**

Q 中央公園入口の横断歩道周辺の安全対策はどのような内容か。信号機設置やカラー舗装などの対応をどのように

A 中央公園入口の壁が高く、運転手から子どもが見えないため、壁をどの角度でカットするか検討している。

信号機の設置については公安委員会と協議しているが、県内でも新規設置は少なく、現状は難しい。カラー舗装の案もあつたが、まずは壁の力で対応し、必要に応じて次の対策を検討する。



運転手にとって死角となる中央公園入口

**除雪体制 運行管理シ
ステム導入で効率化へ**

Q 除雪車両は建設会社へ貸与していただけないと聞かれましたが、運行管理システム導入による運用の変更は。

A 民間で受注した除雪への対応も想定されるため、建設会社へは貸与していません。運行管理システムの導入により運行経路や作業時間の把握が可能となることから、除雪オペレーターの高齢化も踏まえ、貸与については今後検討する。なお、出動については従来どおり、町が道路状況を確認したうえで指示する運用とする。

**空き家実態調査 各地
区区長へ依頼**

Q 空き家実態調査の方法は。

A 過去の調査データを基に、各地区区長へ依頼し、空き家の増減や解体状況を把握する。損傷度調査についてはコンサルタントへ委託する。



令和9年度に解体完了予定の旧庁舎と消防署

旧庁舎、消防署の解体事業のスケジュールは
町長 令和8年度に着手 9年度完了を目指す



本田 均 議員（会派 未来）

問 旧庁舎、消防署について、早急に解体をする必要があると思うが、町長はどのようなスケジュール感を持っているか。

笹島町長 建物の老朽化に伴う周囲の影響などを懸念していたが、旧庁舎の通信や電源等の撤去など、所要の工事に見通しが立った。

令和8年度から本格的に解体事業に着手し、9年度までの工事完了を目指す。

商業、サービス業への支援策は
新年度予算において出来る限りの支援策を講じる

問 商業、サービス業への支援策は新年度予算においては十分と思うか。
若林キラキラ商工観光課長
現在、資材費や物流費、

光熱費などの高騰、賃金の引き上げなどが続いており、町内の商業・サービス業をはじめとした中小企業・小規模事業者は、厳しい経営を強いられている。

こうした中、町の新年度予算においては、引き続き、商業・サービス業をはじめとした事業者に対する施策として、多様な支援制度を計上した。

店舗のリニューアルや事業承継等に伴う経費に対する「元気な商店街再生事業補助金」や「新店舗等立地応援事業補助金」を継続するとともに、新年度からは、中心市街地以外のエリアに対する

補助限度額を増額し、全町的に新規創業への支援を強化していく。

直接的な支援以外にも、入善町商工会に対しては、「小規模事業指導事業補助金」や「商工会活動事業補助金」による支援を継続し、町の商業全体の事業の発展を側面から支援していく。

半年後の町長選挙に向けた意向は
様々な方々と相談しながら考えを整理する

問 町長は半年後に行われる町長選挙に対してどのような意向を持っているのか。

町長 平成26年9月に第7代入善町長に就任して

から、この3月で11年6カ月が経過した。

これまで、ただひたすら、この入善町の発展と町に関わるすべての人々の幸せを実現するためにこの身を粉にして邁進してきた。

入善町よりよい未来につなげていくためにも、まずは、今議会に上程した新年度予算の成立と、その予算に盛り込んだ多くの事業を着実に進めていくことが、私の今の責務と考えている。

今後、後援会をはじめとした様々な方々ともよく相談しながら、私自身の考えを整理していきたい。

学校特別教室や体育館へのエアコン設置は
教育委員会 体育館への設置調査後
事務局 長 方向性を示したい



計画的整備が求められるエアコン

問 新年度予算では、学校の特別教室にエアコンを設置する予定だが、小学校の特別教室や体育館への設置はどうなっ

ているか。

田中教育委員会事務局長

現在、大規模改修を行った上青、飯野、入善以外の小学校と中学校の特別教室、全ての体育館はエアコンが無い。まずは中学校の理科室にエアコンを設置する。現在行っている体育館への設置調査後、一定の方向性を示したい。体育館については昨年12月の補正予算で断熱改修とエアコン整備方法の調査を入善小をモデルケースに行い、それを基にいくつかの提案を受けている。今後は避難所として電源喪失時の対応も含め整備を検討していく。



井田 義孝 議員（会派 日本共産党）

給食完全無償化は令和9年度以降も継続を9年度以降も現在の支援を続けたい

問 新年度予算では中小学校の給食費を無償化するため、国と県から交付金措置される小学生1人当たり5200円に町が1000円を上乗せ支援、中学生に関しては、全額町が独自に補助する。その財源は令和8年度分は昨年12月の重点支援地方交付金を充てるとのことだが、9年度以降も町独自財源で中学校の給食を無償化するのか。今後、物価高騰での値上げが続いた場合も保護

者負担を復活させず、町の負担で賄うのか。
笹島町長 令和9年度以降も8年度と同様の支援を継続していきたい。物価上昇分に関しては状況に応じて対応していく。

加齢性難聴者補聴器購入助成の周知と拡充をまずは周知に努め、利用を促進したい

問 加齢による難聴者の補聴器購入に補助率2分の1、上限3万円まで助成する制度ができたが、これまでの実績はどうか。どのような手続きをすればいいのか。もっと制度を周知し、上限3万円を5万円へ拡大できないか。

腰本保険福祉課長 予算では15件を想定していたが実績は28件だ。65歳以上の方で聴力レベルが両耳で40デシベルを超える方が対象だ。手続きは申請書を持って耳鼻科へ行き、検査をしてから指定を受けた補聴器を購入、医師意見書と領収書を役場に提出すれば助成が受けられる。

耳鼻科や補聴器販売店にチラシを置くなどしているが、今後、福寿会への出前講座など周知に努めたい。障害福祉制度との均衡で3万円の上限にした。まずは事業効果とニーズを把握し制度を研究したい。



給食費の完全無償化が望まれる町内保育所

保育所給食費の完全無償化に取り組んでは
結婚・子育て 園児たちの食べる量の差と
応援課長 調理員の確保が一番の課題になる



佐藤 一仁 議員（会派 自民清流会）

問 令和8年度予算では、保育所副食費を無償化しているが主食は園児が持つることになってい

る。主食も含めた完全無償化に取り組んではどうか。

野村結婚・子育て応援課長

令和元年の国の保育料制度改正で、3歳児以上の保育料が無償となったが副食費は対象外だ。

町は独自の施策で副食費を無償化してきた。町は、主食も含んだ完全無償化に向けて検討を重ねてきているが、「子どもの体調に合わせてご飯の量を調整できる」「お父さん、お母さんが詰めてくれた」との思いが、親子の絆に結びつくものと考えている。家庭生活や食育の観点からも、主食を家庭から持参していただいている。主食を提供するには、

調理や配膳にさらなる調理員の確保や作業スペース、食材や食器の購入費や光熱水費などの課題が生じる。今後、主食の提供について研究を進めていきたい。

**期限を切った小・中学校の整備計画に着手を
教育委員会や校長会で
一定の整理を終えた**

問 第7次町総合計画後期基本計画では学校の整備計画が具体的ではない。教育委員会など関係機関ではどのような検討がなされたのか。今後、期限を切った整備計画に着手する考えはあるのか。

小川教育長 人口減少や

少子高齢化、核家族化など社会環境の大きな変化で教育現場にも様々な問題が生じている。学校・学級の小規模化から、人間関係の固定化や切磋琢磨する機会の減少による弊害などもある。多様で新たな教育ニーズに的確に対応するため、統廃合も視野に入れ、新時代の学校の在り方について検討している。

特に、町の教育理念に沿った環境整備が重要だ。教育委員会や校長会で複数回にわたり意見交換をして、一定の整理を終えた。

今後、町長と教育委員会が協議する総合教育会議において方向性が定まれば、再編時期も含めた次の段階の議論に進みたい。

桃李小前の県道やコースモ21までの町道の消雪は
県道は3月19日までに
請負業者が決定される

問 県が発表した国道8号から桃李小学校前までの消雪整備計画の現状はどうなっているのか。

西島建設課長 消雪機器工事は3月12日に、消雪施設配管第1工区・第2工区工事は3月19日に入札・開札し、請負業者が決定する予定だ。

コースモ21までの町道の消雪化は、必要な散水量の確保が困難であるのと、沿線上に人家などが少ないため地元協力金の負担に課題が残る。現状では、町道の消雪化は難しい。

今後10年間の介護人材不足と介護サービスの展望をどのように見通しているか
 保険福祉 事業所の現状を把握するとともに、地域の課題として検証したい
 課長



安心・安全でおいしい給食

問 今後10年間の介護人材の推移の見通しはどうか。

腰本保険福祉課長 介護職員の高齢化により、退

職に伴う人材確保が懸念される。現在、介護保険組合が介護サービス事業所を対象に介護人材実態調査を行っており、参考しながら、構成市町とともに検証したい。

問 介護サービス体制維持のための総合的な戦略を策定する考えはあるか。

腰本課長 高齢者が、可能な限り、住み慣れた地域で自立した日常生活を営むことができるよう、医療・介護・介護予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制である「地域包括ケアシステム」の実現が求められる中、介護サービスの提供

体制は根幹であり、町として必要な介護人材確保の対策に努める。

問 総合的な戦略を協議する協議体設置の予定はあるか。

腰本課長 介護人材確保や施設再編など、将来的な課題への対応について、介護サービス事業所をはじめ、医療機関、社会福祉協議会、地域包括支援センター等と、日頃より情報共有や連携に努めたい。

外国人介護職員の受け入れは
重要な選択肢の一つ

問 町として、外国人介

護職員の受け入れに対し、関係機関と連携した支援体制を築く考えはあるか。

腰本課長 すでに雇用している事業所がある一方、言語や宗教・文化・生活習慣の違い、住居の確保などの課題を懸念している事業所もある。県や関係機関と連携し、情報共有や支援のあり方について検証したい。

経営困難な介護施設への町の関わりは
必要に応じて支援策を検証したい

問 経営困難に陥る介護施設の再編・統合・用途転換に対する町の関わりはどうか。
腰本課長 基本的には各法人の経営判断なので原則的に困難だが、地域全体の介護サービス提供体制に影響を及ぼす場合、

まずは状況把握に努め、関係事業所や県、介護保険組合等と情報共有を行いながら、町として必要な対応を行うことが役割だと考えている。

安心・安全な給食を無償で提供する体制を
提供体制を維持していきたい

問 今後さらに物価が高騰しても、給食の量や質を落とさず、安心・安全でおいしい給食を無償で提供する体制を維持・継続していく考えはあるか。
田中教育委員会事務局長

物価高騰に対する支援制度を国や県に働きかけるなど、様々な対応により、保護者の経済的負担の軽減に努め、児童・生徒の皆さんに、栄養バランスのとれたおいしい給食を提供し続けたい。



加藤 裕子 議員



菊咲き性の固有種「入善乙女キクザクラ」

有害鳥獣対策実施隊員の確保対策は
がんばる 若手隊員の確保は必須であり
今後関係先と連携して確保に努める



三賀 喜久美 議員

問 有害鳥獣対策実施隊員の確保・育成の取組みと実施隊員の活動内容の住民への啓発をどのように進めるのか。

長島 がんばる農政課長

将来にわたり体制を維持していくためには若手隊員の確保は必須であり、今後関係機関と連携して隊員の確保を行う。

啓発については、毎年、町広報でカラスの捕獲活動に関する周知を行い、区長連絡協議会を通じて周知を図っている。今後機会をとらえて、町広報誌などで、実施隊員の活動内容を周知したい。

問 ICT活用の現状と今後の導入予定は。

長島 課長 ICT技術の活用状況については、クマやイノシシの出没・痕跡情報を町緊急メールな

どで配信をしている。

令和8年度は、24時間クマの出没を監視できるクマAIカメラ3台の導入を予定している。

問 近隣自治体との広域連携の可能性はあるか。

長島 課長 黒部市、朝日町との境界付近での出没情報があつた場合には連携して対応している。

今後連携を密にして、しっかりと対応する。

地域防災において女性が果たす役割は

生活に関わる課題に対応する上で大変重要だ

問 災害時の避難所運営や地域防災において、女性が果たす役割をどのように

うに認識しているか。

梅澤 総務課長 女性の参画は、プライバシーの確保や乳児、妊産婦、高齢女性への配慮のほか、性被害防止など、生活に密接に関わる課題に対応する上で、大変重要であると認識している。

問 本町の防災士の人数、女性防災士が少ない現状について、町はどのような考えであるか。

梅澤 課長 現在の町内有効資格者は76人で、その内女性防災士は12人（女性比率は約16%）である。県内の女性比率24%に対して、低い状況にあり、

地域防災体制における多様な参画という観点から、一つの課題であると認識している。

問 女性が防災士資格を取得するための支援策を検討しているか。

梅澤 課長 現在実施している防災士養成の取組み

の中で、女性が資格取得に手を挙げていただけよう周知を図っていく。

入善乙女キクザクラの苗木保有数は

入善高校に49本の苗木を保管

問 町内で保有している苗木数は。

田中 教育委員会事務局 49本の苗木を入善高校で管理している。

問 町内での移植場所を増やす計画はあるのか。

田中 事務局 移植可能な苗木が増えてきたことから、公共施設・観光施設などに植樹を進めたいと考えている。

問 乙女キクザクラの町観光振興の計画策定は。

田中 事務局 今のところ策定予定はないが、今後より多くの方に親しんでいただけるように関係機関と連携していく。

黒部宇奈月温泉駅からの二次交通
朝日町と連携してはどうか
キラキラ商工事務担当者
観光課長 情報交換の実施など検討したい



令和2年12月に廃止された新幹線ライナー

問 黒部宇奈月温泉駅からの二次交通の在り方について、今一度、検討する必要があると考える。朝日町では「あさひま

ちエクスプレス」により黒部宇奈月温泉駅との接続を図っている。入善町内での乗降を可能にするなど、本町を経由した運行について朝日町との連携を検討してはどうか。
若林課長 他市町からの呼びかけなどがあれば、協議には積極的に参画し、公共交通の広域連携の検証に取り組む思いは持ち合わせている。地域公共交通計画策定の中で様々な検討を行っていききたい。

若林課長 他市町からの呼びかけなどがあれば、協議には積極的に参画し、公共交通の広域連携の検証に取り組む思いは持ち合わせている。地域公共交通計画策定の中で様々な検討を行っていききたい。

問 デマンド交通の広域乗り入れ、黒部や朝日と連携した広域バスの運行など、下新川地域全体を視野に入れた交通ネットワークを構築していく必要があるのではないかと考える。周遊型交通を検討する考えはないか。
若林課長 導入の可能性については、十分な調査や検証が必要である。
問 ウチマエくんの午前便予約が取りにくいとの声があるが、時間帯別需要に応じた増便や運行体制の見直しを検討する考えはあるか。
若林課長 予約が集中する時間帯の増便なども一つの方策と捉えている。町タクシー協会と協議し、より良い運行体制の

構築を図っていききたい。
小学校特別教室の空調整備、全体計画は現段階では明確に言えないのが実情だ

問 小学校の特別教室への空調整備について、その全体計画はあるのか。
田中教育委員会事務局長 学校から新年度予算に対する重点事項の一つとして要望されている。まずは、中学校の二つの理科室に空調設備を整備するための事業費を計上した。今後の整備について、現段階では明確には言えないのが実情だ。体育館空調整備の方向性の検討と合わせ、どの教室から行うか、また、小学校と中学校のいずれを行うかなどを検討し、一定の方向性を示したい。



中瀬 淳哉 議員



青木地区のコミュニティ・パートナーシップ事業

「共助」の担い手不足と
コミュニティ・パートナーシップ事業の推奨は
総務 未実施の地区には
課長 事業実施に向け後押しに努めている



飯田 朱美 議員

問 過疎化・高齢化による「共助」の担い手不足の認識と、コミュニティ・パートナーシップ構築事業の推奨についてどう考

えているか。
梅澤総務課長 人口減や高齢化に伴う担い手不足は、地域の課題となっている。町では「地域コミュニティ・パートナーシップ構築事業」への助成を行っており、未設置の地区には、区長連絡協議会などで必要性を説き、事業実施に向けた後押しに努めている。

問 「結ネット」の現在の導入状況と、今後の普及への取組みをどう考えるか。
梅澤課長 現在、上原・青木・柗山の旧小学校区、芦崎など3集落、上田など3つの自治会が導入している。

結ネットでの役員負担軽減や防災面での優位性をPRし、区長連絡協議会や出前講座を通じてさらに普及啓発に取り組みたい。

問 市町村と連携して地域の巡回や状況把握を行う集落支援員の導入を検討する考えはあるか。
梅澤課長 区長が地域と行政のパイプ役を担っており、現時点での集落支援員の配置は考えていないが、今後の人口減少の進展も踏まえ、調査・研究していく。

問 生活支援体制整備事業を強化すべきだ
先進事例も参考に、地域実情に合ったあり方を研究していく

問 生活支援体制整備事業において、生活支援コーディネーター（地域支えあい推進員）の協議体を地区ごとに設置する考えはあるか。
腰本保険福祉課長 町では、生活支援コーディネーターを町社会福祉協議会に委託している。地区社協・民生委員・自治会等、地域に適した支え合い体制の充実について検討していく。

問 生活支援体制整備事業を強化すべきだ
先進事例も参考に、地域実情に合ったあり方を研究していく

題に対し、重層的支援体制を整備し、分野を横断した相談体制を構築する考えがあるのか。
腰本課長 富山市や南砺市、氷見市、射水市など先進事例も研究しながら、重層的支援体制の構築に向けて取り組んでいきたい。

問 高齢者の一人暮らし支援と見守りデジタル機器の導入についての考えはあるか。
また、導入の際は医療・介護・福祉の専門職の意見を聞きながら取り組む考えはあるか。
腰本課長 今後、医療・介護・福祉専門職の意見も伺いながら、本町の実情に合った形での利用について研究していく。

問 介護と育児のダブルケアやごみ屋敷、8050問題など複雑化した課題について研究していく。

町民の半数が公共交通を町の弱点と指摘

キラキラ商工
観光課長 大変重く受け止めている



町営バス「のらんマイ・カー」

問 町が一昨年に行なった住民意識調査では、町の「問題点・弱み」として48%の人が「バスなどの公共交通が不便」と答

えているが、これをどう捉えているのか。

若林キラキラ商工観光課長

町民の率直な評価であり、大変重く受け止めている。

問 町は、新年度から2年かけて地域公共交通計画を策定するとしている。

住民からはバスルートの増設や朝の乗り合いタクシーの増車、隣の市や町との連絡などの要望が多く寄せられる。そうしたことが検討されるのか。

若林課長 課題解決のために新たな公共交通体系の検討を行なうことになれば、のらんマイ・カー

やウチマエくんの再編などを含めた、具体的な方針などを定めていく必要がある。

町が主導し定期的に避難所運営の訓練を

必要性について周知・普及啓発を図っていく

問 1月に県の地震・津

波調査検討ワーキンググループが中間報告を発表した。

報告では県東部から糸魚川沖にかけての4つの断層が連動した場合、町内のほとんどが震度6強から7の揺れが起こる可能性があると、地域防災力の向上を呼びかけている。

避難所運営には、地域の役員や自主防災組織などの協力が不可欠だ。

町は、こうした人たちを対象に、4年前に避難所運営訓練を行なったが、これを定期的に行うべきだ。

梅澤総務課長 町は、隔

年で総合防災訓練を実施している。また、地区が実施する防災訓練の費用の一部を補助しており、約半数の地区で防災訓練が行なわれている。

総合防災訓練をはじめ、防災研修会や出前講座などで、その必要性について周知・普及啓発を図っていく。

ケアマネジャーを通じ特別障害者手当の周知を
県主体の事業なので県と相談したい

問 町内では介護施設へ

の入所待ちの人が70人のほり、施設入所はなかなか難しい。在宅で介護している家庭への支援の強化も必要だ。

政府が在宅で特別の介護が必要な重度障害者に、月約3万円の特別障害者手当を支給している。

町内の寝たきり高齢者の104人は国の制度の対象になり得ると考えるが、受給者はわずか12人と少ない。

ほとんどの住民にこの制度が知られていない。ケアマネジャーを通じて制度の周知を図るべきだ。

腰本保険福祉課長 この事業は県が主体となっており、ケアマネジャーを通じての周知は県と相談したい。



松田 俊弘 議員

事業紹介 入善っ子の「夢」、叶えます事業

【事業の趣旨】

町の未来を担う入善っ子から町で実現させたい夢を募集し、「自ら実現させたい夢」や「未来の入善町に望む夢」など入善町らしさがつまった様々な入善っ子の夢を町と一緒に叶えていく。

【対象者】

次の全てに該当する個人または団体を対象とする。

- ・町内に住所があり、現に町内に居住している方
- ・小学1年生以上、高校2年生相当以下の個人または団体

【令和7年度 応募結果】

◇応募期間

令和7年6月27日～

9月5日

◇応募数

全192件

- 小学校 128件
- 中学校 59件
- 高等学校ほか 5件

今回提案された夢の一部を紹介する。

してほしい

- ・ストリートピアノを設置してほしい

「小学校の部」 全128件

・みんなと観音祭りに出

店して活気づけたい

・アイドルグループを作っ

てほしい

・スライダーがあるプール

を作ってほしい

・わくわくドームに入善産

の食材を味わえる屋台や

特産品販売をしてほしい

・舟見城址公園に展望台を

作ってイベントを開催し

てほしい

・ショッピングモールを作

ってほしい

など

「中学校の部」 全59件

・入善の曲を作って吹奏楽

部で演奏したい

・プロ野球を誘致できる球

場を作ってほしい

・集中して勉強できる場所

を作ってほしい

・海周辺を整備して、泳い

だり釣りをできるように

【事業化された入善っ子の夢】
全世代からバスケットコートを作ってほしいとの声があり事業化された。

中央公園バスケットボール

コート整備事業

◇事業費

1394万円

◇整備内容

①15メートル×11メートルサ

イズのハーフコート1面を

整備する。

②コート面は、アスファルト

舗装とし、舗装面にはジャ

ンポール三世のイラストを

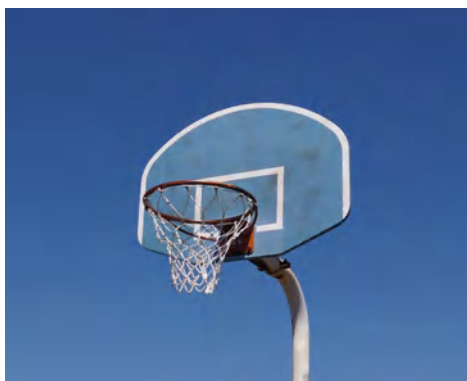
施工

③コートの周りをフェンスで

囲う

◇完成予定

令和8年8月中旬



編集の窓

花の季節も過ぎ、4月から希望に満ちた新生活が始まった皆さんも多いと思います。

しかし世界に目を向ければ、ウクライナ戦争の終結の目途もたっていないのに、イスラエルとアメリカがイランに侵攻してしまいました。

国際法違反の疑いのある「力による現状変更」は、どこの国であれ許されるものではありません。

戦争で犠牲になるのは名もなき市民です。一刻も早い停戦を願うものです。

議会広報編集特別委員会

議長	池原 純一
委員長	鍵田 昭
副委員長	井田 義孝
委員	佐藤 一仁
”	中瀬 淳哉
”	飯田 朱美
”	加藤 裕子